



まちなか環境学習館の指定管理を終えるに当たって

NPO法人うべ環境コミュニティー理事長 浮田正夫

2011年8月より表記学習館の指定管理を9年半に亘り携わってきましたが、3月で終了となります。これまで施設をご愛顧いただいた方々、お世話になった方々に厚く御礼申し上げます。館長は浮田(2011.8~)、西村(2013.4~)、薄井(2016.4~)、山根(2018.4~)、加藤(2020.4~)の5名が務めました。火曜日を除く朝9時から夜9時までの開館と学習室の提供、宇部市環境学習ポータルサイト「うべくる」の運營業務のほか、自主的な事業として環境サロンの開催、銀天エコプラザ通信の発行、まちなかエコ市場、まちなかおそうじ隊などを通して環境啓発や地域活性化の活動に努力してきました。反省としては、われわれの努力不足もあり、本来の「環境学習室」が、受験勉強を中心とした単なる「学習室」から抜け出せなかったことがあります。

ところでわが国においても「小さな政府」、「公助から共助へ」、一昔前なら地方自治体が直営で提供していたサービスを民間の力でやらなければならないという傾向が、少子高齢化社会の到来とともに、ますます強まりつつあります。一方で、高齢化と時代の流れとともにボランティアに依存するNPOの経営も年々厳

しさを増しています。正直なところ、これまでの活動も関係理事のボランティアによって支えられてきた現実があります。

次年度以降、われわれとしては、これからの時代、若い人達に希望を持って強く生き抜く力を身につけてもらえるような、広い意味での環境教育、持続可能な開発目標「SDGs」を担う人づくりともいえる「ESD(持続可能な開発のための教育)」に重点を置き、当法人としての本来の事業を実施して行きたいと思えます。

今後とも皆さまのご理解と、できましたら、ご興味のある部分で少しずつでもご協力をいただけますようお願いいたします。



<http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/index.html>

2020年度第6回ESD研修会 特別講演特別講演「今後の教育の方向性について」 丸本卓哉氏(山口大学元学長)

日時: 2021年3月20日(土) 15時~17時
場所: 宇部市立図書館講座室(宇部市常盤町一丁目7番1号)
資料代500円(高校生以下無料)
申し込みは不要です。
Facebookでのライブ配信も予定しております。



第111回まちなかおそうじ隊

日時: 2021年3月28日(日) 15時~
集合: まちなか環境学習館前

一緒にまちなか環境学習館周辺や銀天街アーケードを掃除しましょう! 終了後は茶話会を行います。申し込みは不要です。直接学習館前にお越しください。道具もお貸しします。



2020年12月27日回収ごみ

お知らせ

宇部市まちなか環境学習館のミーティングルーム(2階・4階)と学習室(3階)は、3月31日をもって貸出しを終了いたします。これまで長い間、多くの皆様にご利用いただき誠にありがとうございます。今後は環境学習の拠点施設としての機能強化が図られる予定です。引き続き宜しくお願い申し上げます。

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

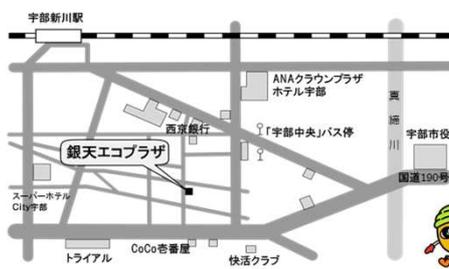
宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し(近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時~21時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 毎週火曜日、年末年始(12月29日~1月3日)



指定管理者 NPO 法人うべ環境コミュニティー

宇部市のSDGsへの取り組み

宇部市総合戦略局理事 三戸敏彰



宇部市におけるSDGs未来都市の原点は、本市の公害克服の歴史にあります。かつて「世界一灰の降るまち」と言われた宇部市でしたが、科学的調査データに基づきながら、産官学民が相互信頼と対話により環境問題解決を図る自主的活動、いわゆる「宇部方式」により、公害を克服してきました。このことは、本市の経済発展のなかで、地域に受け継がれてきた「共存同栄・協同一致」の宇部の精神が原動力となったものであり、その結果、1997年に国連環境計画（UNEP）からグローバル500賞を受賞しました。

この宇部の精神を基調として、本市では持続可能なまちづくりに向けて、多様な主体の連携と、「人財が宝」をキーワードに地域の「人財」の育成・活躍促進を図るとともに、市の施策を展開する中で、SDGsの達成に向けた取組を推進しています。

そうした中、2019年4月に、起業・創業の拠点である「うべ産業共創イノベーションセンター志」内に、SDGs推進拠点として「宇部SDGs推進センター」を設け、市民・企業・大学など多様な主体が連携



ときわ動物園でのフィールドワーク



こどもワークショップ

しながら、人・情報・技術を効果的に共有させ、地域の課題解決や新ビジネスの創出などに取り組んでいます。

本市の「未来都市」としての取り組みの特色は「人財」の育成であり、その一つとして、子どもたちを対象に「ときわ動物園」をフィールドとした「せかい！動物かんきょう会議」を開催し、世界的・第三者的視点に立った多様な発想・行動ができる「人財」育成に取り組んでいます。また、現代社会の課題を「自分ごと」として捉えることをポイントとして、市民、企業、団体に対して普及啓発を行うとともに、「宇部SDGsフレンズ」会員制度を設け、個人・団体などが相互に連携できる仕組みも構築しています。



うべ環境コミュニティー会員



コラム



私の中の公害

西村 誠

歳も70を過ぎて、ボチボチ断捨離と身の回りを整理しつつあるこの頃です。しかし、かなり整理したものの、やはり手放せないものがあります。それは10数年来収集してきた公害関係の書籍類です。

振り返れば公害と言うものに意識し始めたきっかけは地元で就職した数年後、新米教育の一環として海水中の水質検査を半年ばかり、その中で実感した海の汚染の状況です。その後社用で東京に出張、早朝、東京駅にゆっくり近づいている車窓から異様な光景が目に入ってきました。高架の線路上から見えるのは、はためく白いのぼり旗、それには黒々と文字が書かれていました。その光景に眠気もいっぺんに覚めてしまいました。その光景は現役時代の忙しい日々の中でも脳裏の片隅に刻み込まれ、その経験は現場管理の傍ら積極的に公害防止管理者等の資格取得へのきっかけにもなり、工場の公害防止管理者として長期に携わることにもなりました。

公害が社会問題として表れてきたのは明治維新後「富国強兵」「殖産興業」の掛け声とともに開発され始めた鉱山開発で顕在化した足尾銅山の鉱毒事件です。そして第二次世界大戦の終戦後、荒廃した国の回復と共に公害は工場排出物、食品への毒物混入、車か

らの排出ガス、騒音など多様化してきました。その中でも大きく暗い影を長く落としてきたのがチッソ水俣工場から排出された有機水銀中毒事件です。この事件の経過は私の生きて来た時代と共にあるということでも脳裏に大きく刻まれた公害事件です。

この事件、私が意識したのは冒頭に記載した白いのぼり旗です。その後時おりテレビのニュースなどで見る水俣病被害者の活動の先頭に立つ川本輝夫氏の鬼気迫る姿、チッソ水俣工場の門前にぶちまけられている水俣湾で取れた魚等の映像は今もはっきり脳裏に刻み込まれています。

数年前にあるグループに参加、水俣を初めて見て回ることが出来ました。水俣病公式確認から60年余り、その痕跡は薄れてきており、表面的には歴史に埋没しかけているというのが正直な実感でした。被害者は今も多くおられ、それを支える方も努力されていますがひっそりと世間に埋もれているといった様子でした。

ある時代の特定の地域の公害問題は今広く世界的な環境問題へと移行しています。それは世代を越えて深刻な問題になりつつあります。その初めは公害問題を僻遠の地の特定の問題として意識することなく第三者として見過ごしてきたことのしっぺ返しではないだろうか。

今一度残された時間をそれら公害問題の深刻な様子を目の当りにした証言者の語りを本の中に見ていきたいと思う日々です。